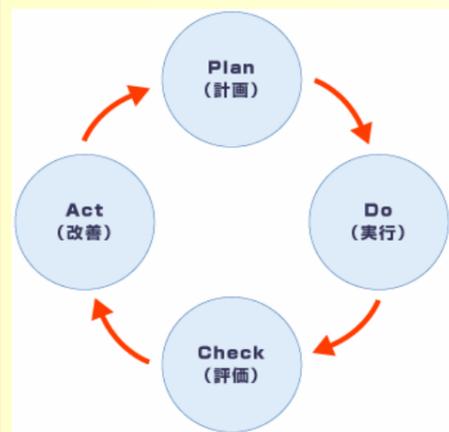


# 計画の推進

計画案本文P.57～「6.計画の推進」より

計画はPDCAサイクルによる進行管理を行い、進捗状況は「食育推進の指標と目標値」により把握・評価を行います。

「計画Plan」とし、毎年、「実行Do」「評価Check」「改善Action」を繰り返す、PDCAサイクルによる進行管理で取組状況を点検・評価し、次年度の改善や見直しに活用します。計画の進捗状況は、客観的な指標である「食育推進の指標と目標値」により把握し、評価を行い、その結果はホームページ等で公表します。



朝食をほぼ毎日食べる割合	
小学生	現状 98.3% を ↗
20歳以上	現状 87.4% を ↗
栄養のバランスやエネルギーを考えて食事をしている割合	
小学生以上の男性	現状 52.9% を ↗
小学生以上の女性	現状 70.7% を ↗
食育の推進に関わるボランティア数	
ボランティア数	現状 125人 を ↗
家族と一緒に夕食をほぼ毎日食べる割合	
小学生の保護者	現状 93.8% を ↗
「食育」の意味を知っている割合	
小学生の保護者	現状 73.3% を ↗

野菜たっぷり食育宣言 (西東京市版)



意識啓発プログラムの例



西東京市産農産物キャラクター「めぐみちゃん」

問い合わせ先：西東京市企画部企画政策課  
 住所：西東京市南町5-6-13 田無庁舎  
 電話：042-464-1311(内線1122) FAX：042-463-9585 E-mail：kikaku@city.nishitokyo.lg.jp

# 西東京市食育推進計画(素案) 概要版

## 食育推進計画

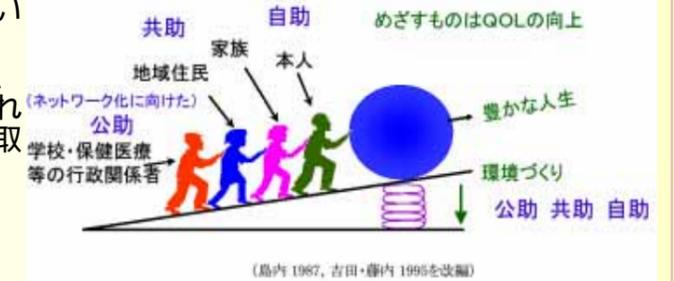
この計画を通じ、健全な食生活を実践できる人間を育むことを目指します。関連計画との整合を図り、各主体が力を発揮する取組を示します。この計画の期間は、平成21年度から平成25年度までの5ヶ年とします。市は、市民、ボランティア・NPO等市民活動団体、民間事業者が行うそれぞれの特性を活かした食育への取組や相互の連携を支援します。

「食育」とは、さまざまな学習や体験などの経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることで。

「食」は、私たちが生きていくために毎日欠かせない大切なものです。しかし、私たちの『食』は、大きく変化しつつあります。生涯にわたり、健全な心身と豊かな人間性を育てるために、市民一人ひとり、市民活動団体、事業者、市が「食育」の意義や必要性を理解し、「食」に関する正確な知識や判断力を身につけていくことが重要です。そこで、市民、市民活動団体、事業者、市が相互に連携し、地域の特性を踏まえた「食育」を推進するために、西東京市食育推進計画を策定しています。

## 家族ぐるみ、地域ぐるみで「食育」を実践していきます。

親と子、友人や仲間、職場の同僚といった身近な関係の中で、相互に働きかけあうことで生まれた動きが、次第に有機的に結びついていくことが望めます。また、食育の取組は、市民、市民活動団体、民間事業者、市がそれぞれ、自らに期待される役割を認識し、相互に連携を図りながら取り組むことが重要です。



計画の位置付け

食育基本法

食育推進基本計画(国)

上位計画である総合計画や関連する個別計画との整合を図り、各主体が力を発揮する取組を示します。



計画案本文P.22「施策の体系図」より

### 基本目標と施策の体系

将来像と基本方針をもとに、本計画では3つの基本目標を設定し、これに沿って施策の体系を展開します。

<b>基本目標1</b> 食の自立と健康的な生活を実践する取組の推進	1-1 乳幼児と保護者の食育
	1-2 児童・生徒の食育
	1-3 成人の食育
	1-4 高齢者の食育
	1-5 食の安全・安心
<b>基本目標2</b> 農の理解を通じた食を大切にす心の育成	2-1 農業体験の推進
	2-2 地産地消の普及啓発
	2-3 食をとりまく環境の理解
<b>基本目標3</b> 人と人とのつながりによる広がりある食育の推進	3-1 地域の食育の担い手への支援
	3-2 食文化の理解・習得
	3-3 食育ネットワークによる食育

### 重点事業の設定

計画の将来像の実現に向け、実施優先度の高いものや、庁内の関係各課が連携して横断的に取り組まなければならないものなどを重点事業として設定し、具体的な実施方針を示し、計画の実行性を高めます。

- 1 食育の普及啓発～「野菜たっぷり食育宣言」等～
- 2 「食育・地産地消推進店」の認定制度
- 3 東大農場連携事業
- 4 食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション事業
- 5 特定健康診査・特定保健指導
- 6 保育園・小学校を拠点に家庭・地域と連携した食育

計画案本文P.47～「5.重点事業」より

計画案本文P.24「計画の目指す姿」より

### 西東京市食育推進計画の将来像 食が織りなす、豊かな暮らしのあるまち



食は生活の根幹であり、健康や個人の生活の質、生きがいを支え、人生を豊かにする大切なものです。市民一人ひとりが食について意識を高め、健全な食生活を実践する動きを、NPO等市民活動団体・事業者・行政が連携し、支えることにより、すべての市民と未来を担う子どもたちが生涯にわたり健全な身を培い、深い人間性を育み豊かに暮らす「西東京市」をめざします。

本計画は、以下の視点に基づき策定します。

- 市が率先して取り組むとともに、市民、NPO等市民活動団体、事業者の取組も活性化する
- 身近な関係の中で生まれた「動き」を重視する
- 施策・事業の重点化により、計画の実効性を高める
- 計画の進行管理と、評価・改善のしくみを整える

計画に掲げた施策や事業が着実に実施されるよう、庁内における計画の推進体制とともに、進行管理や実施効果の検証などを行う体制を整備し、必要に応じて取組を評価・改善していきます。

### 市民の皆さんに取り組んでいただきたい食育目標

食は、365日の営みであり、何よりも市民一人ひとり、家族や仲間との取組が大切です。本計画は、市民活動団体や市民や市など様々な団体が、計画の将来像実現に向けて、食育に取り組み、推進していくものですが、なかでも市民一人ひとりの食育の取組を盛り立てるために、ライフステージに応じた目標の目安を「実現したい姿」としてまとめました。

ライフステージ	行動指針	家族や地域で実現したい姿
乳幼児期 0～5歳	<b>食べる意欲を育てる</b> 発達段階に応じた適切な食への対応を行う 子ども自ら、食への興味を育て、楽しむ	安心と安らぎの中で授乳される心地よさを味わう正しいはしの持ち方を身に付けること始める 早寝早起きの生活リズムを整え、規則正しく野菜たっぷりの食習慣を身に付けている 家庭での手伝いを通して食材や調理に関心をもっている
学童期 6～12歳	<b>食の体験を拡げ選ぶ力をつける</b> 子どもが自ら振り返り、自己の課題にきつき健康への意欲、態度を育てる 家族ぐるみで望ましい食習慣を形成する	はしの持ち方や姿勢など食事のマナーが身についている。 栽培、収穫などの農作業や、調理経験を通じて食材や食についての関心を高めている 家族ぐるみのつきあいで、食の共同作業の経験をもっている
思春期 13～18歳	<b>食を自己管理する力を鍛える</b> よりよい健康生活を自ら実践し、試行錯誤から学ぶ	食生活と健康について学び、バランスの取れた食事を実践している 食の安全や環境への配慮について、知識をもち、無駄や食べ残しを減らすなどの実践をしている 家族や地域ぐるみでの食の共同作業経験などを通して、自らの食のスタイルを身に付ける
青年期・壮年期 19～64歳	<b>食生活を確立し、見直し、次世代に伝える</b> 子育てを契機に家族ぐるみで食への関心を高め、体験を共有する 活動内容に応じた適切な食事を選択する方法を身に付ける 地域ぐるみで食への関心を高める 健康面から不規則な生活や、バランスをくずした食事を見直す	家族ぐるみで、早寝早起きの生活リズムを整え、規則正しく野菜たっぷりの食習慣を実践している 家族ぐるみで、地域の農や食に関心をもち、生活に取り入れている 身近な地域で、行事食や伝統食を経験したり教わる機会がある 肥満予防に関心をもち、活動の実態に即して、現実的な健康増進への取組を行っている 地域ぐるみで、作物を栽培、収穫し、仲間と共に食事を楽しむ機会がある
高齢期 65歳～	<b>生活への意欲を維持し、食を楽しむ</b> コミュニケーションを図り、食を含む生活への意欲や関心を高める 食の内容が低栄養になる事を予防する	外出や人とのつきあいを活発にして、生活の意欲を高めている 地域ぐるみで、仲間と共に食事を楽しむ機会がある 体調に応じて、食事の相談をできる人が身近な地域にいる

計画案本文P.25「市民が取り組む食育目標」より